

## 令和7年度普及指導活動に係る外部評価の実施状況について

### 1 趣旨

2025 広島県農林水産業アクションプログラムの基本理念である「生産性の高い持続可能な農林水産業の確立」の実現に向け、農業技術指導所が実施する普及指導活動のさらなる充実・強化及び効率化を図り、成果の見える普及指導活動を展開するために、当年度の普及指導計画から選定した課題について、幅広い視点から外部委員より意見を聴取し、その評価結果を次年度の普及計画等へ反映させることをねらいとして実施した。

### 2 外部評価会議の内容

#### (1) 外部委員の構成

分野	所属・役職等	人数
先進的な農業者	指導農業士	1名
若手・女性農業者	専務取締役	1名
農業関係団体	農業団体課長	1名
消費者	消費者団体事務局長	1名
学識経験者	大学教授	1名
マスコミ	記者	1名
民間企業	経営コンサルティング会社代表取締役所長	1名

(計7名)

#### (2) 評価対象

##### ア 普及指導計画に定められた成果目標の達成状況

普及指導計画のうち、広島県内の半数の市町の普及指導計画を評価対象とした。

(全体 57 課題のうち 23 課題)

※23 課題を一覧として評価対象とするとともに、このうち、代表的な 6 課題について、より詳細な評価を実施した。

##### 【代表課題】

課題番号	主な品目	担当指導所
①	青ねぎ	西部
②	ほうれんそう、農産物加工	西部
③	とまと	東部
④	水稲、肉用牛、野菜	東部
⑤	とまと	北部
⑥	ほうれんそう	北部

##### イ 評価課題の達成状況

評価対象課題全体における達成状況の評価を実施した。

### (3) 評価項目

評価対象	評価項目	評価の視点（例）	
普及指導計画に定められた成果目標の達成状況	評価対象課題 全体の達成状況	○普及活動は計画どおり進んでいるか ○普及活動の目標は達成しているか	
	代表課題	普及指導活動の 計画・課題設定	○普及の支援対象として、対象者の選定は適切か ○課題の現状把握、現状分析が的確に行われているか ○課題の重要性が高く、課題解決・目標達成に有効な計画か ○目標の設定、成果指標は適切か
		普及指導活動の 進め方	○活動方法と時期は適切か ○効果的な所内の活動体制となっているか ○関係機関との連携・役割分担はできているか
		普及指導活動の 成果	○普及指導活動の寄与により、目標が達成できたか（見込めるか） ○成果を的確に把握分析し、今後の活動に向けた課題が整理できているか ○他産地、他の経営体への波及効果があるか（見込めるか）

### (4) 外部評価会議の開催状況

【第1回】※外部委員への事前説明

- ・日時：令和7年8月7日（木）10：00～16：00
- ・場所：北広島町役場、青ねぎ栽培ほ場、ほうれんそう栽培ほ場

時間	内容	参加者
10：00～12：00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及指導活動の説明 (アクションプログラム、普及指導体制、普及指導計画等)</li> <li>・評価対象6課題の概要説明</li> </ul>	外部委員 農業技術指導所長、 課題担当者 農業技術課
13：00～16：00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査（評価対象課題のうち2ほ場） (課題対象者からの概要説明、質疑応答等)</li> </ul>	

【第2回】※外部評価の実施

- ・日時：令和8年1月19日（月）10：00～15：00
- ・場所：県立総合技術研究所農業技術センター

時間	内容	参加者
10：00～10：10	・外部評価実施概要の説明	外部委員 農業技術指導所長 農業技術課
10：15～12：00	・評価対象6課題の実績報告 (令和7年度普及指導活動実績報告会へ出席)	外部委員 報告課題関係者 (市町、JA、農業者) 農業技術指導所 農林水産事務所（農林事業所） 農業技術センター 本庁関係課 農業技術課
13：00～13：45	・評価課題の質疑応答	外部委員 農業技術指導所(所長、担当者) 農業技術課
13：45～13：55	・評価事項の説明 (研修体系等、評価課題一覧の実績まとめ)	外部委員 農業技術指導所(所長、担当者) 農業技術課
13：55～15：00	・評価及び意見整理	

### 3 評価の概要と今後の対応方針

#### 課題番号①

#### 1 産地の概要

- ・21 経営体がハウスで水耕ねぎを生産している。新規就農が入ってきていることにより、着実に販売額を伸ばしている。
- ・生産者の増加に対して、暑さによる生育不良や病害虫の発生等により生産量が伸び悩んでいるため、夏期の生産安定が急務となっている。
- ・グループ内での単収の差が拡大しており、生産者の経営の安定化・所得拡大が課題となっている。

#### 2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
夏期生産安定	活動経過	夏期の安定生産の技術的な支援を実施する。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及対象の2経営体は暑熱対策を実践したが、病気の発症が止まらず、目標としていた生産量に届かなかった。産地としては昨年度に比べて生産量増になり、産地全体での取組成果はあった。</li> <li>・換気の重要性について一定の理解が得られ、妻面換気を実施した。</li> </ul>
生産者自身により目標設定と振り返り	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各生産者が夏期の目標出荷量を設定するよう働きかける。</li> <li>・生産後に当所がデータをまとめ、実績を生産者と共有する。</li> <li>・各生産者が次年度の目標出荷量及び達成するための取組事項を設定するよう働きかける。</li> </ul>
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷の予実管理や生産者別の経営状況をグループ内で共有し議論することで、生産者の経営意欲の向上につながった。</li> <li>・生産者がより一層予実管理を行い、グループ内として青ねぎ産地を担っていく組織力を今後強化していく必要がある。</li> </ul>

#### 3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○所得を上げるために、価格の高い夏場の収量向上という明確なKPIを設定したことはいいと思った。</p> <p>○目標設定する生産者がいないことを当たり前ととらえず、目標設定する生産者を増やすことを目標にし、PDCA サイクルを自らが回すことへの動機づけをしたことは良いと思った。</p> <p>○生産者ごとに過去分析を行い、目標設定、勉強会及び予実管理を指導したことは評価できる。</p>	<p>○収穫量が増加した経営体とそうではない経営体との差が病気だけが要因なのか、把握できたらいいと思う。</p> <p>○目標を達成していないのは目標に対しての行動が適切なのか検証が必要だと思う。</p> <p>○成果に格差があるため、特に成果が見込めないメンバーへの指導強化が必要だと思う。</p> <p>○共有をもっと増やしてほしい。</p> <p>○グループ内での広がりをもう少し取り組めたらいいと思う。</p>	<p>○減収要因の絞り込みのため、生産環境の記録方法の統一や共有・可視化を支援する。</p> <p>○役員主体による分析とフォローアップの強化を図り、目標に対しての行動が適切であるか検証する。</p> <p>○生産改善が停滞している層に対しては、役員と連携した個別フォローを行いボトルネックの解消を支援する。</p> <p>○情報共有方法を工夫することで、グループ全体の技術向上を図る。</p>

## 課題番号②

### 1 経営体の概要

- ・ほうれんそうを周年生産している経営体。従業員数は21名であり、ほうれんそう生産以外に、加工（野菜パスタ）、水稻、露地野菜、土木等を行っている。
- ・高い生産技術を持ち、遮光など基本的な暑熱対策は実施されている経営体だが、令和6年7月～9月の猛暑では発芽不良や病害の発生により生産量が減少した。

### 2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
細霧冷房による昇温抑制技術の実証	活動経過	<ul style="list-style-type: none"><li>・園芸振興協会の大規模モデル・地域連携実証展示ほ事業を活用し、農業技術センターで開発された低圧細霧冷房による昇温抑制技術の実証展示を行う。</li><li>・低圧細霧冷房の費用対効果を整理し、経営全体の状況から細霧冷房の展開を検討する。</li></ul>
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・産地で未導入の昇温抑制技術の効果を費用対効果も含めて整理することができ、今後の展開について検討することができた。</li><li>・導入にあたって、技術のノウハウを獲得し、今後の気温上昇に備えて対策の事前準備を整えることができた。</li><li>・今回の導入試験では、ミストの影響により廃棄量がやや増加したため、自身の経営に適した細霧冷房の噴霧条件（噴霧サイクル・稼働時間等）の見直しが必要である。</li></ul>

### 3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○夏場の暑熱対策は日本農業全体における緊急の課題であり、県内の導入例も少ないことから、この点に着目したことは良いと思う。</p> <p>○地域の核となる企業経営体であり、経営者のモチベーションも高く、現状把握もしっかりできている。</p> <p>○損益分岐点分析など適切な指導がなされている。</p> <p>○生産者と密にコミュニケーションを取りながら計画を進めている点を評価できる。</p> <p>○細霧冷房は導入コストが低く、効果的・安定的に夏場の収量確保をするための技術として評価できる。</p>	<p>○細霧冷房の使い方を間違えると、逆に生産量が減少してしまうのは問題である。</p> <p>○湿度をどうするか、葉をどう乾かすかが課題とを感じる。</p> <p>○初期費用について、思い切って投資しているのは評価できるが、成果につなげてほしい。</p> <p>○導入の費用と売上が釣り合うようにしたい。</p> <p>○残念ながら成果が上がっていないため、しっかり分析して取り組みを継続してほしい。</p>	<p>○細霧冷房は、令和8年度においても気象条件や栽培条件に適した有効な稼働条件や使用期間の検討を支援する。</p> <p>○実証試験の設計及び実施については、生産者や農業技術センター等と一層のコミュニケーションに努める。</p> <p>○細霧冷房の導入効果が出せるよう、今回の結果を踏まえ、次年度の栽培については、制御方法を改善し、収益を確保できるよう支援する。</p>

## 課題番号③

### 1 産地の概要

- ・夏季冷涼な気候を生かした夏秋トマト産地であり、出荷量、販売金額とも県内最大規模である。
- ・近年の異常気象に対応するために新品種「麗月」を導入したが、品種特性を踏まえた栽培管理法の確立が求められている。
- ・トマト生産団地の造成や研修制度による新規就農者の受け入れ等支援してきたが、資材価格の高騰等により既存の新規就農モデルが成り立たなくなり、研修制度が休止中となっている。そのため、研修再開に向け、新規就農が実現可能な経営モデルの作成が求められている。

### 2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
新品種「麗月」に合った栽培技術の検討	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業技術センターの「麗月」の施肥試験を参考に、かん水指標案を作成する。</li> <li>・生産者の栽培状況や収量実績と施肥かん水実績を振り返り、より産地に合った基準へ改良する。</li> </ul>
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地に合った施肥かん水指標を作成することができ、平均収量も向上した。</li> <li>・栽培管理で得たデータを基にして生産者間での情報交換や議論が活発になった。</li> <li>・高温期以降の草勢維持による収量や品質向上については、暑熱対策等の技術構築が必要である。</li> </ul>
新規就農者の育成	活動経過	研修制度を経ずに就農した生産者に対し、定期的な巡回指導及び若手勉強会への参加を促すことで、栽培技術の習得を支援する。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標以上の収量を達成することができた。</li> <li>・7～8月の収穫繁忙期には作業遅れがあったことから、来作は効率的な作業改善やパート雇用の検討が必要であることが課題として整理できた。</li> </ul>
経営モデル見直し	活動経過	・研修制度の再開に向け、新規就農者向けの経営モデルの見直しを行い、産地協議会に提案する。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資材高騰を踏まえた経営モデルを計画より前倒しで作成できた。</li> <li>・関係機関と協力して研修制度の募集を再開することができた。</li> <li>・研修生確保後は、モデルを基にした経営の実現のための支援を行う。</li> </ul>

### 3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○今の時代に見合った経営モデルを作成できているのがいいと思う。</p> <p>○データ分析、人材育成、経営モデルの見直しと、経営者にとって一番欲しい改善点を明確にしたのは評価できる。</p>	<p>○若い生産者が持続的に営農できる環境づくりと、その方法論の共有が重要である。</p> <p>○施肥かん水指標の作成は今後もブラッシュアップが必要である、</p>	<p>○新たな研修生も確保できており、次年度の普及指導計画にも位置付けて支援していく。</p> <p>○施肥かん水指標については、次年度以降もデータ収集し、より産地に適した指標を作成する。</p>

## 課題番号④

### 1 経営体の概要

- ・現在、7名の従業員を常時雇用し、水稻、繁殖牛、肥育牛、野菜（ねぎ等）で経営を行っている。水稻、畜産、野菜の各部門に担当者を配置し、部門別の収支や労働時間の把握、作業改善にも取り組んでいる。
- ・これまで、各部門の適正規模や経営上の位置づけの再整理、畜産部門の拡大に伴う資金計画の作成などを支援してきた。今期は継続的に人材を育成していくための仕組みづくりと急速に拡大した畜産部門の管理手法の改善を中心に支援している。

### 2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
人材育成の仕組みづくり	活動経過	主力品目であり、全従業員がかかわる水稻の主要な作業（機械作業）からスキルマップを整理し、現状の把握と従業員ごとの育成計画作成を支援する。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の現状の技術習得状況や今後の行動計画が明確となった。</li> <li>・人材育成を着実に進める仕組みとして定着させていくとともに、判断基準等を明確にしていく必要がある。水稻機械作業以外についても取組を広げる。</li> </ul>
適切な飼養管理による経営安定	活動経過	子牛の発育状況を定期的に確認し、飼養管理改善を提案する。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼養管理の改善を実施した結果、子牛が順調に生育していることが調査結果及び出荷成績から確認できた。</li> <li>・飼養管理や子牛観察の判断基準を整理する等、担当従業員を中心に、子牛の管理改善の判断ができるように支援していく必要がある。</li> </ul>

### 3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>○部内別分析、資金繰り分析を基に指導を進め、スキルマップを経営者・従業員のヒアリング及びその他の経営者との情報交換会を基に作成したことは評価できる。</li> <li>○人材育成とその評価をセットで検討を進めたことは評価できる。</li> <li>○法人の高齢化が進み、若手への技術継承が課題の中、良い成果が出ており、モデルケースになれるものである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○洗い出した課題に沿ったスキルマップ作りをもっと具体的にしてほしい。</li> <li>○畜産部門の取組をもう少し強化できたらいいと思う。</li> <li>○畜産部門は畜産事務所および畜産協会との連携をしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次年度からスキルマップを活用した人材育成を開始する。実際に取組を進めながら、より効果的にスキルマップの活用ができるように検討する。</li> <li>○畜産部門については、肥育と繁殖部門を分けて収支を整理し、課題を明確にした上で、再度、畜産事務所や畜産協会と役割分担を行い、連携した取組を進めていく。</li> </ul>

## 課題番号⑤

### 1 産地の概要

- ・「令和9年度に販売額〇億円」を目標に産地ビジョンを策定しているとまと部会。
- ・近年は生産者の高齢化により栽培面積が縮小し、平成30年以降新規就農者がいない状況が続いている。このため、産地の持続的な発展には、新たな担い手の確保・育成と既存組合員の生産性向上が喫緊の課題となっている。

### 2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
新規就農者の確保・育成	活動経過	・新規研修希望者の掘り起こしを目的に見学体験会を開催し、研修希望者に対して受入れに必要な調整を行う。 ・研修生（令和9年度就農予定者）に対し、栽培技術の習得及び営農計画の作成支援を実施する。
	成果・課題	・新規研修希望者の受け入れに至らなかった要因について、部会及び関係機関と共有・整理することができた。今後は、就農意欲の高い希望者が参加しやすいよう、募集方法や見学体験会の内容について検討を進める。 ・定植以降の作業項目の多くが「一人で実施できる」水準に到達した。研修2年目は、作業の段取りや判断力の習得に向けた支援が必要である。
出荷時期調整技術の構築	活動経過	需要が大きい10月の出荷量増加を目的に、摘果房処理による出荷時期調整技術について実証を行う。
	成果・課題	・摘果房処理により着果負担が軽減し、樹勢の回復が確認された。一方、増収効果は摘果房を実施した開花段の次段までにとどまり、10月の出荷量増加にはつながらないことが明らかとなった。
高温対策技術の確立	活動経過	夏期高温による生育不良や単収低下を軽減するため、吹付式遮光資材を用いた高温対策技術について実施した。
	成果・課題	・目標遮光率を低めに設定していたことや、散布ムラが生じたことから、遮光による昇温抑制効果や増収効果を確認することはできなかった。一方、近年の高温傾向を背景に、部会員の高温対策への関心は高まっており、本試験結果を部会で共有した結果、次年度も継続して試験を行う方針となった。

### 3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
○マンダラートでビジョンを作成しているのがとても分かりやすく評価できる。 ○部会員の意識改革が進んでいることは評価できる。 ○イベント等にも参加し、販売協力及び人材育成を行っていることは評価できる。	○細霧冷房等の技術が指導所同士で共有がなされているか不安に感じる。 ○遮光、摘果房の成果が目に見えるものではなかったのが残念。 ○研修希望者の掘り起こしについて、産地の魅力を十分にアピールできていないのではないか。	○他産地で導入されているスマート技術等については、積極的に情報収集し、必要に応じて取り入れる。 ○遮光方法、時期等を再考し実施する。 ○産地の魅力を深掘り、魅力が伝わるチラシ作成やターゲットに伝わる取組を実施する。

**課題番号⑥**

**1 経営体の概要**

- ・施設ほうれんそう、水稻を経営する法人であり、令和5年1月に設立された。
- ・ビジョンである「10年後に〇億円」達成に向けて「ほうれんそうの選果処理能力向上と生産能力の拡大」、「生産現場を任せられる人材育成の仕組みづくり」が大きな課題となっている。

**2 普及指導計画の実施状況と成果等**

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
今後の規模拡大に向けた中期経営計画の完成	活動経過	専門家派遣事業の活用や県外視察を通じて、現選果場能力の把握と新選果場の詳細を決定、規模拡大の方針決定を行う。ビジョン「〇億円達成」に向けた取組を整理した中期経営計画の作成支援を行う。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標選果能力と新選果場のレイアウトを決定することができた。今後の規模拡大に向け、部門毎の目標と取組の整理により、中期経営計画が完成した。</li> <li>・ビジョン達成のため、中期経営計画に基づいた行動実施とほうれんそう部門・水稻部門の土地生産性の向上が課題である。</li> </ul>
人材育成計画作成	活動経過	今後2名の正社員雇用に向けて、求める人材像の整理・面談・研修内容・スキルマップ等の社内体制整備支援を行う。それらをまとめた自社の人材育成計画の作成支援を行う。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織図の見直しと各役職の役割を定義し、生産部長と農場長を育成する方針を決定した。また、棚卸した業務と将来の引継ぎ先を定めた役割分担表を作成した。</li> <li>・スキルマップ表が完成し、これを活用した社内面談による人材育成の仕組みを構築することができた。継続的の人材育成の実施が今後の課題である。</li> </ul>

**3 評価の概要及び今後の対応**

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○先進経営体を基に、スキルマップなども取り入れて、着実に目標に近づいている。</p> <p>○若手農業者の生産意欲を向上させるような普及計画を策定している点が評価できる。</p> <p>○生産者と十分なコミュニケーションのもとで、その強みを引き出し、その強みに基づいて計画が立てられて進められている点は評価できる。</p>	<p>○新しい普及活動の取組を今後期待したい。</p> <p>○計画達成のための人材育成が達成されていないので、今後に期待したい。</p>	<p>○策定した中期計画を着実に達成できるよう伴走支援する。</p> <p>○引き続き、必要に応じて先進経営体などの視察を提案する。</p> <p>○作成したスキルマップ等をもとにした人材育成を伴走支援する。</p>

## 対象課題

### 1 対象

- ・ 県内 10 の産地育成課題及び 13 の経営体育成課題。

### 2 普及指導計画の実施状況と成果等

- ・ 令和 7 年度の「売上目標」「成果指標の達成状況」「普及指導活動の成果と課題」「今後の対応」を一覧として整理した。

### 3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○特に経営分野（目標設定・見える化）での成果・生産者からの評価が高かったと感じる。</p> <p>○農家で作業を実際に行っていると、数字に落とし込んだり、データをまとめたりという作業に中々注力できない中で、指導所の方々は各経営体に寄り添った指導ができていると思う。</p> <p>○活動自体は単に生産指導だけでなく、理念、ビジョンの策定等経営に踏み込んだ指導になっていて素晴らしい。</p>	<p>○活動計画に対しては評価できるが、天候の問題もあり、売上計画達成に向けての取組が弱いと感じる。</p> <p>○今後も厳しい夏の暑さが続くと思われるため、暑熱対策の成果を出していただければと思う。</p> <p>○指導所同士で計画立案し、情報共有することが望まれる。</p>	<p>○引き続き経営発展意欲のある経営体及び産地に対し、効果的な普及指導活動を展開できる指導体制をとる。</p> <p>○これまで売上計画が達成できていなかった要因を可視化されたデータから分析し、適切な取組を行うことができるよう支援する。</p> <p>○暑熱対策については、令和 8 年度も引き続き県域調査研究で技術共有する。</p> <p>○関係機関と連携し、随時情報共有を行いながら活動を進めていく。</p>